

## 第 25 回 インカレ 優勝

白 倉

昭和50年7月16日～17日、佐賀大学自動車部当番のインカレナイトラリーが行なわれた。インカレラリーでナイトラリーが行なわれたのは、最近なかっただけにどういうラリーであるかといろいろ思案したが、私達は自動車部員としての最後の学生ラリーを成績はどうであれ一生懸命頑張ろうと誓った。

このラリーには3年生チームと私達4年生チームの2台がエントリーした。どちらも3名乗車である。私達の車は前回部誌で紹介した山口大学主催のラリーで優勝したブルバードSSSのラリー仕様車である。ドライバーは坂井君、ナビゲーターは高橋君、そして私はカリキュレーターである。開会式の前から雲行きが悪くなり、雨が降り出した。この調子だとラリー中、雨と霧に悩まされそうである。ドライバーズミーティングは前日行なわれていたのでPM7:00からの開会式並びにミーティングは公式通知の追加だけであった。それによるとバスコン(PC)が110指示速度の変更である。私達は、一瞬目を疑った。200kmのラリーだからPCは多くとも100個以内だと確信していたからだ。私達は今日のラリーもPCの勝負だと思った。

さて車検も終り、いよいよスタート時刻にせまりつつある。1号車のスタート時刻は午後9時01分である。3年生チームは、2号車で9時02分スタート。私達は6号車で9時06分スタートである。いよいよ1号車がスタートした。次に私達は3年生チームを見送り自分達のスタート時刻を待った。坂井君と私は一般ラリー等、今まで何度となくラリーに出場した事はあったが、このラリー前の緊張感と言うまでもなくひとしおなものである。この短い時間に私達は問題をもったら何をするか再確認し合った。前の車がスタートした。問

題が渡された。地図 (MAP) と指示書を取り出す。表紙を読む。MAPは「正門前のドンツキ左」。

いよいよ9時06分他大学の部員が見送る中をスタート。この時は心配された雨も止んでいた。PCを探しながらMAP通りに車は快調に進んでいく。ところがPC4からPC6まで見落としてしまった。仕方がないので私は等区間距離で計算を行なうことにした。こうしてOMCPまで3つのPCを見逃したにもかかわらず、どうにかOMCPにたどりついた。先についているはずの3年生チームがまだ来ていない。あとで聞いてみるとミスコースしたとか。私はOMCPでOMCPのスタート時刻の計算を行う。前席では坂井君と高橋君がMAPに指示を書き入れている。計算上のスタート時刻がでた。スタートまであと数分しか残っていない。全員気を落ちついてスタート時刻をまつ。

『ハイ15秒前スタート』とカリ。『次のMAPは〇〇PC〇〇』とナビ。『OK!』とドライバー。『オンタイム、でもあのPCの距離はあれで良いのかな』とカリ、『悪い、悪い』とナビ、『あんなもんさ、違っていても1~2分だから気にせずに行くぞ』とドライバー。そうこうしているうちに1チェックポイント (CP)。正解秒が29秒。計算上で30秒前後に出たからもしかすると減点0ではないかと期待したが、結局丁度1分遅れの減点1。次の2CPは秒計時である。1CPからの指示速度は、31.6 km/h、次のPCから42.1 km/hに上った。山道の舗装路でコーナーが急なところもあるが、一般ラリーで鍛えた坂井君の腕からするとたいした事はない。間もなくチェックポイントがあると思ったが、ついにダートに入り指示速度が24.0 km/hにdown、ドライバーの坂井君は、この指示速度にやや不満そう。それから約3km先に2CP。(4秒早着)

この頃から止んでいた雨がまた降り出してきて、少し霧も出てきたようである。3CPは難なくオンタイムで減点0。3CPを過ぎた頃から大雨となって

きた。PCの目標物がとても見えにくい。やがてPC 46初速34.2 Km/hで1 Km毎に9% up downの指示である。ここで私は計算ミスをしてしまった。指示よりも少し高い指示速度で計算していたのだった。ミスに気がついた時に4 CPが現われた。時計を見ると57秒~58秒である。私は大雨の中を走っていくナビに大声で『“次の分”/20分/』と大声で叫んだ。オフィシャルは“前の分”しかくれないうとあきらめていたが、あの雨の中で高橋君のガッツに負けたくて要求通りに次の分(20分)のチェックカードをくれたのである。車に帰った高橋君はビショビショであった。これで4 CPも減点0。このあとも雨が激しく降りつづけ、いよいよPCが見えにくい。どうもPCを見落としたらしくPCが出てこない。ここで私達は5分のレスコンをとることにする。前には1号車の福岡大学のセドリックが止まっている。彼らも計算がわからないらしい。私が計算をやり直している間に5mぐらいバックすると、そこにあのPCがあるではないか。非常に幸運である。しかし、すでに2分位遅れていたのではやはり5分レスコンをとることにした。こうして5 CPも減点0。コースは北山ダムへ向っているらしかった。6 CPも減点0。前半最後の7 CPは秒計時である。7 CP手前で北山ダムのPCを見落として17秒早着の減点0.3。レスコン地点には私達が1番に着いたが、他大学の応援隊が集まっていた。

再スタートまで約30分位あったが、私達は軽い食事を済ませた。車の点検と後半の問題の確認を済ませた。やがて3年生チームがレスコン地点に来た。カリの安永君が車酔いでダウンしたとかで、ドライバーの感で走ったとの事である。さていよいよ後半の競技が始る。前半の競技ではどのチームもあまり差はなく、後半が勝負だろうと思った。後半はさきほどの大雨も止み、ところどころに星が見えるくらいになった。8 CPオンタイムで減点0、9 CPは秒計時で減点0.2、10 CP減点1、時計は4時を回っていて一番眠たい時間であ

る。たばこをすって眠たさをまぎらわす。11CPの減点0、12CP減点1  
13CP減点0。

13CPをすぎてからPCを続けて2つも見落して10分のレスコンをとることにした。現在の指示は『初速15Km/hで1Km毎に10%のup、down』である。道は車一台ぎりぎり通れる位狭い。しかし15Km/hというのはあまりにも遅すぎる。一速でどんなにゆっくり走っても必ず先行する。ついにドライバーの坂井君が頭にきたのか途中から30Km/hぐらいで走りだした。彼に言わせると、こんな狭い所にはCPはないから広い所で止まるつもりであったそうだが、なんとその最初の広い所にCP14があった。結局5分レスコン申請に変更して90秒遅れの減点1.8。次はゴールのスタンドCP（申請CP）である。私達はPCの距離をとり無事佐賀大学の正門をくぐった。正解表を見てもと14CPまで減点5.4である私達は優勝どころか入賞さえも完全にあきらめた。私は最後のスタンドCPの計算を何度もやり直し、オフィシャルに提出した。あとは表彰式を待つだけである。

約2時間後、暫定結果の発表である。私達九工大Aチームは2位である。1位は九産大チームである。私達はあきらめていただけに一応喜び合った。ところがよく見ると最後のスタンドCPでの減点が時間にして約90秒の減点である。PCは全部とっているし、こんなに違うわけではないと思ってもう一度計算したがやはり私達の計算通りである。しばらくしてオフィシャルの正解のミスを見つけ抗議を行い、またオフィシャルもミスを認めて計算をやり直した。私達は減点は少なくなるだろうが順位はそのままだろうと思っていた。ところが1位の九産大がオフィシャルと同じミスをしたのだろうか、スタンドCPで大量減点をくらってあっさりと1位と2位がひっくり返ってしまったのである。

私達は信じられない気持ちで恥も気にせず互いに手を取り喜び合った。疲れも眠気も一瞬吹き飛んだ感じである。

結局、1位は九工大Aチーム2位は九産大、九工大Bチーム(3年生チーム)は12位であった。最近、我がクラブでAチームがラリーで入賞したことはなかったが、ここにジंकスを堂々と破ったのである。

このラリーを通して、ラリーという競技はチームワークが一番大切であり最後まであきらめてはならないということを再び痛感した。

又、他大学はほとんど4名乗車であるが各人協力しさえすれば3名乗車でも充分であると思った。それから競技自体について感じた事は、いくら学生ラリーとは言えあまりに計算主体のラリーでは車が走れないということである。

別に計算がめんどうだからという意味ではない。計算を行ないながら車が進む——これがラリーではないだろうか。

とにかく去年のインカレラリーでは惜しくも2位に甘んじたが、今回はチームの和で優勝できた事をここに報告する次第である。